

## すぐれた英語授業実践 ——よりよい授業づくりのために

樋口忠彦／緑川日出子／高橋一幸 編著

高橋正広

(神奈川県立大和西高等学校教諭)



本書には19のすぐれた授業実践例が紹介されているが、本書の目的はそれらの授業の素晴らしさのみを紹介するだけに留まらない。本書の主役は読者であり、読者の明日の授業に役立つようさまざまな工夫がなされている。

本書は全6章で構成されており、英語4技能に焦点を当てた授業の他、「英語で進められる授業」「文型・文法指導」なども1つの項目をなしている。それぞれの授業は、1. 本時の目標、および学年指導目標による位置づけ、2. 授業準備のプロシーチャー、3. 本時の授業展開、4. 生徒の到達度評価、および授業の内省、5. 私の理想の授業、の5観点から授業者が詳細に説明している。どの章から読み始めても構わないが、是非じっくりと一つ一つの教案を読み、「実際の授業は、ビデオではどう映っているのか」「自分が授業者なら自分の生徒の反応はどうか」など、イメージトレーニングの題材としてほしい。読み進むうちに、「こんなアイデアもあるのか」と新鮮な驚きがあるかもしれないし、「本当にここに紹介されている授業で効果があるのだろうか」と疑問を持つかもしれない。紹介された授業について、読者に自由な感想を持ってもらうために、授業者の名前は冒頭には出てこない。そして、授業者による説明の後に授業分析者のコメントがあるが、これがすごい！指摘するところはズバツと指摘している。「分析者にはこの課題の理由が判然としな」「運営方法に工夫が求められる」など、厳しい表現が見られる部分もあり、参考にすべきすぐれた点と、改善すべき点から授業が「斬られて」いる。

教案は授業者によって分かりやすく解説されてお

り、必要に応じて、クラスルーム・イングリッシュや実際に取り交わされた先生と生徒の対話も紹介されているので、授業の様子が生き生きと伝わってくる。

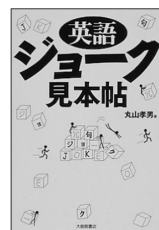
本書にある19の授業は全て読者のものであり、どのように自分の授業で活用するかも自由である。ただし、1年後または3年後の大きな目標から明日の授業を考えることは本書の全ての授業例に共通している。そのため、学年または3年間の目標を視野に入れ、毎日の授業がその中でどこに位置するのかを常に考えるようにしたい。そして、どの授業者も日々努力し、私たちと同じように悩んでおり、本書を通じてお互いが切磋琢磨する仲間が増えればという編著者のメッセージも心に置きたい。

## 英語ジョーク見本帖

丸山孝男 著

豊田一男

(筑波学院大学教授)



本書はジョークをテーマ別・種類別に分けて様々なジョークを紹介する、前著『英語ジョークの教科書』の続編とでもいうべき書物で、「見本帖」とは言い得て妙といえる。ジョークの世界では定番の「先生と生徒」「ことば遊び」「親と子」「ノック・ノックジョーク」「レストラン・ジョーク」「よい知らせ・悪い知らせ」「エレファント・ジョーク」「一口ジョーク (one-liner)」などなど、ジョークの見本が次々に登場する。一般読者を対象とする本書だが、英語教師を意識して、教室で安心してすぐに使える短いジョークが数多く取り上げられている。しかも、こなれた和訳だけでなく、著者の人生哲学を感じさせるコメント、コラムが随所にあり、著者との対話を楽しむこともできる。

前著との違いで目に付くのは各章の終りの「ジョークのオチを考えてみよう」のコーナーである。初級・

中級・上級とあることで読者の「ジョーク理解力」が試され、いつも試験をする側にいる教師が試験される側になり、巻末の解説を生徒になった気分で読むことになる。全問正解者はジョーク理解力抜群のお墨付きを頂けそうである。

ジョークの理解は必ずしも容易ではない。著者が前著でも述べているように、音声的な側面だけでなく、歴史、伝統、文化、慣習、ことわざ、などの背景的知識があってはじめて笑えるからである。

What do you send a sick florist?

あなただったら、病気の花屋さんになにを送りますか？

言うまでもなく、病気のお見舞いには花を贈るという習慣を知らなければ笑えないことになる。

また教室での英文法の説明に使えるジョークも少なくない。

A yawn is silence with the mouth wide open.

あくびは口を大きく開けた沈黙である。

いわゆる「with 構文」の文例として使える。著者はこれに「教師ならば、授業中に大声で言ったり、板書したいジョークです！」というコメントも忘れない。

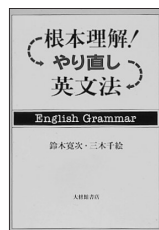
ジョーク理解のコツを会得し、「教育の現場に笑いの渦を！」という著者の願いを実現するためにも、ジョークを「人生の指南書」とするためにも、本書によって、「ジョークのシャワー」を浴びてみることをお勧めしたい。

## 根本理解！ やり直し英文法

鈴木寛次／三木千絵 著

萩野俊哉

(新潟県立新潟南高等学校教諭)



魅力的な本です。その理由を4点挙げます。

①本書は主な文法項目20章から成ります。それぞれに

「初級文法」、「中級文法」、「発展文法」とレベル分けして解説がなされています。まずは各章の初級編のみざっと通して読んで文法全体の基礎を確認するもよし、また、各章ごとに順にレベルを踏んで理解を深めるもよし、あるいは自分の読みたいレベルのみをピックアップするもよし。とにかく使い勝手がよい。②英語の「通時的」(英語の時代的变化に焦点を当てる)考察を縦系に、そして、「共時的」(現代のヨーロッパ諸語の中での英語の位置付けに焦点を当てる)考察を横系にして織り成した、奥行きと広がりをもつ内容が随所にあります。

たとえば、「時制」の章の「発展文法」において、進行形の由来についての記述があります。それによると、現在のヨーロッパ言語に、英語と同じような進行形をもつ言語はなく、歴史的に見て、進行形はいわば突然変異のように英語に登場し、特に17世紀頃に驚くべき速さで広まった、といいます。そして、英語の進行形「be+ing」の“~ing”は歴史的にもととは動名詞であったという説、あるいは、今日でもアイルランドでは本来必要のない進行形を使って、動作の強調、臨場感を出すこともある、ということなどが紹介されていて、読んでいて思わず楽しくなってしまう。それはきっと、「ああ、ことばってやっぱり生きているんだ」ということを実感し、ことばのもつ力強さや生々しさが伝わってくるからに違いありません。これは本当に重要なことだと思います。

③説明がコンパクトでわかりやすい。くどくない。これはありがたいことです。余計な「脂肪」や「贅肉」を削ぎ落として、ポイントをズバリ述べる。なかなかできないことです。時間をかけて推敲を重ね、磨き上げてきた文章であり、内容であるということが読み込めば読み込むほどよくわかります。

④ユーモアがあります。たとえば、皆さんはふだん英語を教える身として、生徒には次の日本語をどのような英語に直させていますか。

「もし明日雨が降れば、私は外出しない」

本書ではこの答えとして4通りが紹介されています。何とそれらは…、おや、もう紙幅が尽きました。答えがお知りになりたい方は、どうぞ本書第16章「仮定法」の「発展文法」のページをお読みください。